

2022年度

<工 学 部>
外 国 語 問 題
(英 語)

注 意 事 項

- 1 問題冊子は、監督者が「解答始め」の指示をするまで開かないこと。
- 2 問題冊子は全部で7ページ、解答用紙は1枚である。脱落のあった場合には申し出ること。
- 3 解答用紙の所定欄に、受験番号（左右2箇所）、氏名を必ず記入すること。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定欄に記入すること。
- 5 解答以外のことを書いたときは、該当箇所の解答を無効とすることがある。
- 6 解答終了後、配付された解答用紙は必ず提出すること。
- 7 問題冊子の余白は下書きに使用してもよい。
- 8 問題冊子は持ち帰ること。

(余 白)

第1問 次の英文を読んで、設問に答えよ。

(90点)

著作権の都合により、公開しません。

著作権の都合により、公開しません。

著作権の都合により、公開しません。

(出典 : RAHUL RAO, Learning a second language early might have ripple effects throughout your life, *Popular Science*, February 8, 2021, 一部改変及び省略あり)

問1 空所(イ)～(ニ)を補うのにそれぞれ最も適切な語を、次の1～5の中から選んで、その番号を記せ。ただし、同じ番号を繰り返し用いてはならない。

1. at
2. by
3. from
4. out
5. to

問2 空所(あ)～(え)を補うのにそれぞれ最も適切な語を、次の1～5の中から選んで、その番号を記せ。ただし、同じ番号を繰り返し用いてはならない。

1. adopt
2. create
3. shape
4. switch
5. undergo

問3 下線部(1)の言い換えとして最も適切なものを、次の1～4の中から選んで、その番号を記せ。

1. cause children to be more reluctant to use
2. encourage children to be more willing to use
3. invite children to be more creative in using
4. motivate children to be more cautious about using

問4 下線部(2)を日本語に訳せ。

問5 下線部(3)の具体的な内容を、本文に即して、50字以内の日本語で説明せよ。ただし、句読点も字数に入れる。

問6 下線部(4)の言い換えとして最も適切なものを、次の1～4の中から選んで、その番号を記せ。

1. the arguments against bilingualism
2. the arguments concerning bilingualism
3. the arguments emphasizing bilingualism
4. the arguments in favor of bilingualism

問7 下線部(5)を日本語に訳せ。

問8 次の語(句)を並べかえて、下線部(6)の空所(①)～(⑧)を補う場合、(②)(⑤)(⑦)にはそれぞれの語(句)が入るか、その番号を記せ。

- | | |
|--------------------|-----------------------------------|
| 1. able to | 2. adapt |
| 3. been | 4. may have |
| 5. sensory changes | 6. the brains of early bilinguals |
| 7. thoroughly | 8. to |

問9 本文の内容と一致するものを、次の1～4の中から選んで、その番号を記せ。

1. Early bilinguals do not need to search for visual cues in their environments.
2. One test examined how quickly subjects recognized a new image occurring on a screen.
3. Researchers agree about the benefits of bilingualism.
4. Researchers measured the time it took for subjects to notice their own image.

第2問 次の日本語の下線部(1)と(2)を英語に訳せ。

(30点)

私は今までの研究生活において、失敗したことはありません。こんなことを書くと、いったいどんな天才なんだ、と感じてしまうかもしれませんが、決してそうではありません。要は、(1)たとえどのような結果になったとしても、それを失敗だとは感じなかった、ということです。

人はたいてい、考えていたことがうまくいかないと、ピンチだと考えてしまいます。ところが、私にとってそれは決してピンチではないのです。ピンチと捉えてしまうと、どう対処するか、という後ろ向きなことだけに関心が向かってしまいがちです。私は、絶対にそれではダメだと思うのです。

(2)今まで考えていた方法でうまくいかないということは、問題解決のための新たな方法を発見するチャンスです。マイナスのほうに振れたなら、それをゼロに戻すのではなく、プラスに転ずる方法を考える。そのくらいの能天気さがあつたほうが、ものごとはきつとうまいきます。

(出典：益川敏英、『ノーベル物理学者が教える「自分力」の磨き方』ブックマン社、2014)